

6 日本赤十字社の災害救護訓練

— 平成 14 年度関東ブロック合同訓練を主催して —

内藤万砂文・三上 理
長岡赤十字病院救命救急センター

新潟県が主催した日本赤十字社の合同災害救護訓練の経過を報告する。

災害時における当院の役割は医療救護班の派遣と傷病者の受け入れであるが、今回は救護班派遣の訓練である。関東一円の 12 都県からの救護班、救急隊、赤十字防災ボランティアなど 750 名が参加した。「マグニチュード 7 の地震により多数の傷病者が発生」の想定で、「グリーンピア津南」を会場に行われた。今回は現実的、実践的な訓練を目標とした。具体的には傷病者の割り振りや搬送順位決定の業務に専念する「コーディネート班」の設置、救護班に人的、物的支援を行う「支援調整班」の設置、救急隊の参加、音による演出等を行った。40 分間の訓練が 2 回行われ、それぞれ 50 名、100 名の傷病者が搬入された。訓練後、30 分と 2 時間の検証が行われた。大混乱し、批判が続出し、多くの課題を残した訓練ではあったが、企画側としては目的は達成できたのではないかと考えている。

Ⅲ. 特別講演

「外傷初期診療の標準化」— JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) の紹介を兼ねて —

大阪府立泉州救命救急センター所長
横田 順一郎

第 45 回新潟画像医学研究会

日時 平成 13 年 6 月 2 日 (土)
午後 2 時～5 時 45 分
会場 長岡グランドホテル
2 階 末広の間

I. 一般演題

1 Solid type cerebellar pilocytic astrocytoma の 1 例

本山 浩・吉村 淳一・関原 芳夫
外山 孚

長岡赤十字病院脳神経外科

【はじめに】Solid type cerebellar pilocytic astrocytoma の全摘出し得た一例を経験したので報告する。

〔症例〕11 歳、女児。頭痛、嘔吐、フラツキを主訴に来院。CT にて右小脳半球に主座をおき第四脳室から右小脳脚におよぶ約 5cm の mass が認め、plain で mass は淡い高吸収域で外側上方に一部 cyst を思わせる低吸収域があり、CE (+) にて mass は淡く造影され、内部は一部 necrotic で、cyst を思わせる低吸収域の wall は造影されず、石灰化は認められない。第四脳室は閉塞し水頭症をきたしている。MRI にて、mass の充実性部分は T₁ 強調像では軽度低信号、T₂ 強調像では均一な高信号、FLAIR image では均一な高信号である。外側上方の一部 cyst の内容液は、T₁ 強調像では低信号、FLAIR image では低信号として描出される。Gd (+) にて充実性部分は T₁ 強調像では内部は一部 necrotic ではあるが増強されるが、cyst wall は増強されない。脳血管撮影では、淡い腫瘍陰影がみられる。以上より、小児の小脳充実性腫瘍として Ependymoma, cystic な component をもつ Medulloblastoma, Solid type pilocytic astrocytoma を鑑別診断とし、手術を施行した。術中、脳幹への浸潤は認められず、全摘出し得た。病理学的診断は pilocytic astrocytoma であった。術後、一過性に右小脳性失調を認めたが軽快し、術後

MRIにて残存腫瘍を認めず、良好な予後が期待できるものと考え、放射線治療はせず、独歩退院。

【結語】Cerebellar pilocytic astrocytomaはその2/3以上がCystic typeであるが、本症例のように小児の小脳充実性腫瘍に遭遇した場合、Medulloblastoma, Ependymomaと並んでSolid type pilocytic astrocytomaを念頭におく必要があると思われた。

2 蝶形骨洞内腫瘍として発見された下垂体腺腫のCTとMRI

古澤 哲哉・岡本浩一郎・伊藤 寿介*

森井 研**・酒井 邦夫***

新潟大学医学部附属病院放射線部
同 大学院医歯学総合研究科顎顔
面放射線学分野*

同 医学部附属病院脳神経外科**

同 大学院医歯学総合研究科腫瘍
放射線医学分野***

症例は、70歳女性。主訴は難聴。人工内耳の適応つき新潟大学耳鼻咽喉科を紹介され、精査のため頭頸部CTとMRIを施行したところ、偶然に蝶形骨洞内の腫瘍が発見された。正常下垂体の偏位変形がほとんど認められない点を除けば、MRIの信号強度やdynamic patternは下垂体腺腫に合致するとして、術前に診断が可能であった。蝶形骨洞腫瘍や斜台腫瘍の鑑別診断として、主に下方進展のみを示す下垂体腺腫も考慮する必要がある。

【参考文献】Masui T., et al. Pituitary prolactinoma mimicking tumor originating from the sphenoid sinus or clivus. Radiation Medicine. 14 (4) : 189-191, 1996.

3 Superficial siderosis (脳表ヘモジデリン沈着症)の2例

登木口 進・永井 雅昭*・岡本浩一郎**

伊藤 寿介***

小千谷総合病院神経内科

同 内科*

新潟大学医学部附属病院放射線部**

新潟大学大学院医歯学総合研究科顎顔
面放射線学分野***

種々の原因による慢性または反復性のクモ膜下出血によって脳表面特に小脳や脳幹、脊髄の表面にヘモジデリンが沈着する病態は、以前は剖検によって診断される事が多かったがMRIの出現により生前診断が可能となった。我々はMRIにより診断できた2例を経験したので、それぞれの原因を考察し報告した。

1例は临床上は脊髄小脳変性症と区別できずMRIにより初めて診断された。頭部外傷の既往があったが脳挫傷の跡は画像上なく、外傷を原因とする根拠はなかった。髄液検査は、拒否された。

第2例目は現在、無症状と考えられ原因は特発性で、髄液は正常であった。

4 開心術後心筋の超音波によるIntegrated Backscatter (IBS) 値の変化についての検討

榛沢 和彦・北村 昌也・林 純一

佐藤 一範*・遠藤 裕*

新潟大学大学院医歯学総合研究科
呼吸循環外科学分野

同 医学部附属病院集中治療部*

5 腹腔内遊離体の1例

奥泉 美奈・佐藤 敏輝・塚田 博

厚生連長岡中央総合病院放射線科

今回、我々は、イレウスにて偶然発見された腹腔内遊離体を経験したので、報告する。

症例は77歳の男性、2000年7月上旬から腹痛を訴え、徐々に増強し、7月21日にイレウスの診